

院内癒やす彫刻6点



「天空にあそぶ」をテーマにした作品が並ぶ北村さんの彫刻展

登別市の彫刻家・北村哲朗さんの彫刻展「天空にあそぶ」が室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院内にあるせいてつギャラリーで開かれ、入院患者や来院者の心を癒やしている。

(石川綾子)

登別・北村哲朗さん

北村さんは30年ほど前から彫刻制作を始め、2008年(平成20年)にはスベ

製鉄室蘭病院で作品展

インのアルティガス財団芸術村で9カ月間修行した。帰国後の10年からは毎年札幌市などで個展を開き、記憶や水、時を題材に数々の作品を制作。昨年1〜3月にもせいてつギャラリーで彫刻展を開き、患者や来館者から好評だったことから、2回目の開催となった。

今回は大作を6点展示。テーマの「天空にあそぶ」について北村さんは「たまには立ち止まっつてのんびりと空を見上げたり、記憶をたどったりすることで、新たな発見が生まれることがある。作品がそのきっかけになればうれしい」と話す。ハンノキを材料とした「蒼天」は青空や大空を意味している。雲が流れていく様子や山すそにかかる虹など、北村さんが幼少期に住んでいた山深い故郷への思いを形にした。新月を意味する「朔」はウダイカンバで制作。日々新たな気持ちで過ごしたいという願いを込めた。

北村さんは「彫刻は人それぞれ見方がある。作品を通して木のぬくもりや柔らかさを感じ、自由に想像を膨らませてほしい」と呼び掛けている。

展示は4月28日まで。鑑賞無料。問い合わせは製鉄記念室蘭病院事務部長菅企画課、電話0143・47局4404番へ。

Culture
文化
Art
芸術

◇情報をお寄せください
「文化・芸術欄」では皆さんからの情報を募集しています。編集局(☎0143・22局5123番)へ。